

働き方改革と 守・破・離の精神③

守・破・離とは、もとは千利休の歌「規矩作法 守り尽くして破るとも離るとても本を忘るな」から来ているもので、修行の各行程における心構えや行動を説いた熟語。

守：師の教えを受けて修行を遂行し、一人前に成長すること。
破：修行や自分の成したことを分析し、より高い目標に改善すること。
離：師の元を離れても、自ら新たな技術や知識を開発できること。



株式会社 システム科学
代表取締役社長 石橋 博史
東京都生まれ。1962年から24年間、自動車機器メーカーに勤務。1986年、株式会社システム科学を設立、代表取締役に就任。業務革新の実践および支援ツール「HIT.s法」の開発・導入・コンサルティングを推進する。2010年2月に、P・F・ドロッカーに認められた「業務プロセス可視化法およびチャート作成システム」で特許を取得。2011年3月、一般社団法人可視経営協会を設立、代表理事を務める。主な著書に『最少人数で最強組織をつくる』（ダイヤモンド社刊）など多数。

第三回目の今回は守・破・離のうちの「離」を取り上げて、その精神が(株)システム科学が取り組む働き方改革にどのように生かされているのかをお話したいと思います。

「離」、それはHIT.sの指導者として新たな開発を推進すること。

前回は、HIT.s法の習得と活動における「守・破・離」の「破」の考え方についてお話ししました。第三回目の今回は「離」の精神についてお話ししたいと思います。カウンセラーの指導や、研修・セミナーを経てHIT.s法をマスターすると、HIT.s法の指導者として活動することができます。そうすると、今度は受講者たちにかんがってという課題が出て来ます。自分がいくら理解していても、相手が理解してくれないと意味がない訳ですから。HIT.s法には「決まり」がありますが、教え方には「決まり」がありません。例えば小さなことでも、言葉の使い方や図の出し方について、自分なりに最良な手法を開発していかなければならないのです。「離」には新たな技術・手法を開発できること、という意味がありますが、私は、この指導法の開発という部分をまさに「離」だと考えています。

また、教え方だけでなく、HIT.s法そのものに関して、常に最適で使いやすいフォーマットであるよう、改善と改良を継続していかなければなりません。その一つの例が、

Sチャートで使われる記号の見直しです。なるべく記号の数を少なくし、シンプルで使いやすいように常に気を配っているのですが、さらに使いやすく、分かりやすくするために、今回、敢えて古い表記をやめて、新記号を開発し追加しました。HIT.s法を極めてもなお、新しい視点で開発を進める、ここにも確かに「離」の精神が宿っているのです。HIT.s法を学び習得することが「守」、HIT.s法で集積したデータを分析しトータルな効率化基盤を構築することが「破」であるならば、HIT.s法をマスターした後に新たな視点で常に開発作業を行うことが「離」なのです。こうして考えてみると、HIT.s法のプログラムは全ての行程において、「守・破・離」の精神が根底にあると言えるでしょう。

離：師（カウンセラー）の元を離れても、自ら新たな技術（指導法）や知識（新記号）を開発できること。

ちなみに、HIT.s法で算出すると、導入後6ヶ月で約15～20%、1年で約20～40%、労働時間が短縮できるというデータが出ています。これは、これまで行ってきたムダな作業を廃止することで、業務全

体が円滑に進むようになったということです。ムダな作業とは一刻も早く離別すること。これも「離」の考え方と言えるかも知れません。

今年の4月から、働き方改革関連法が施行されたのは、もう皆さんご承知の通りで

離

す。時間外労働の上限規制や、有給休暇の強制取得（年間10日以上の有給休暇を持っている社員が対象）などの重要課題の他、自由で多様性のある働き方推進という項目も大きな指針の一つとして掲げられています。これは、ワークライフバランスを重視した柔軟な働き方を推進する取り組みで、テレワークや副業、兼業などを視野に入れた労働改革です。中でもテレワークは情報通信技術を利用した、場所や時間にとらわれない働き方で、在宅勤務やモバイルワーク、サテライトオフィス

ワークなどがその代表的な例となっています。そもそもテレワークとは、「tele=離れた」と「work=働く」を合わせた言葉で、勤務先から離れた場所で仕事をすることを意味しています。テレワークは勤務先に出社しなくていい分、自立化、もしくは独立化した業務形態と言えます。しかし、この場合、仕事のアウトプット（成果物）の価値測定が重要になり、そのポイントは“タイムマネジメント”ということになります。特にフリーランスで活動する場合、テレワークは、自分で機器を整え、自らの知恵で最適な環境を開発することが必要になります。私から見ると、テレワークのシステムは、どこか「離」の精神に似ているような気がします。

「離」、それは今からでも間に合う働き方改革実現の離れ技。

これは前回の「破」の時にも触れましたが、柔軟な働き方を推進するにも、やはり経営者の英断、実行力がないと、経営革新は進みません。なぜなら、働き方改革は経営が進める改革そのものなのだからです。しかしながら、通常の場合、経営者の方々も早急に適切な具体策は思い付かない

というのが実情ではないでしょうか。何しろ、働き方改革はこれまでになかった国家規模の取り組みですから、「何をどうすればいいのか」という問題に直面してしまうのは致し方ないことです。社内に専門スタッフがいない、前例がない、今から自社で改善プログラムを開発するのはコストやリスク、人材の点でなかなか難しい…。そんな時、HIT.sのような業務プロセス改善プログラムをご利用いただきたいのです。HIT.sはこれまで、いくつもの企業で生産性を向上させてきた確かな実績があります。

HIT.sの導入で生産性向上、そして人材育成とモチベーションアップ、そして、自由で柔軟な働き方が実現できるのです。そうなれば、経営者と社員の関係もウィンウィンとなり、職場環境は一気に改善されます。これは、まさに働き方改革実現の「離れ業」と言っていいいでしょう。これが、私が考えるもう一つの「離」なのです。

次回最終回は、「守・破・離の精神」シリーズ総集編として、いよいよ弊社イメージキャラクター、女性空手家・中村綾乃さんとの対談をお届けします。お楽しみに。

働き方改革に クリーンヒット! HIT.s

業務プロセス改善プログラムHIT.sの概要を解説する2大セミナー、参加者募集!

10/24
(木)開催

経営革新を実現したい経営者の方に

HIT.s法 事例セミナー 秋の部 (全1回)

日時	10月24日(木) 13:00~16:30
場所	システム科学研修室
受講料	8,000円(税別)
お申込み	一般社団法人可視経営協会のサイト、または右記のQRコードよりお申込みください。 ※定員50名様とさせていただきます。

11/8
(金)開催

業務プロセスを改善したい現場管理者の方に

日経ビジネス 課長塾® 冬講座 (全3回)

日時	11月8日(金)・12月13日・2020年1月17日 9:30~16:30
場所	システム科学研修室
受講料	180,000円(税込) ※昼食付
お申込み	日経ビジネス課長塾のサイト、または右記のQRコードよりお申込みください。

